

自治体の課題、現状

- 県の特徴として、中山間地域では小規模校が多く、団体競技に単独で出場することができない学校が増えている。
- また、単独では取組が難しい自治体もあるため、取組の進捗状況に差がある。
 - <1中学校30人未満 24校/（93校）>
 - <1市町村1中学校 17市町村/（34市町村）>
 - <協議会等の設置 18市町村/（34市町村）>
 - <推進計画策定 6市町村/（34市町村）>

※（ ）は県全体数

県の方針

- 「高知県部活動ガイドライン」を見直し、新たに「高知県における部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を策定する。
- 急激な少子化が進む中でも、将来にわたる生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保・充実等を図る。

Step1：令和10年4月までに、原則、教員が休日に指導を行わない体制に移行

Step2：令和13年度末までを目安に、休日の学校部活動は地域クラブ活動に移行

地域クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	544人
域内の部活動数	32部	実施した地域クラブ数	0クラブ
主な運営団体	県としての取組はありません		

取組の概要や成果

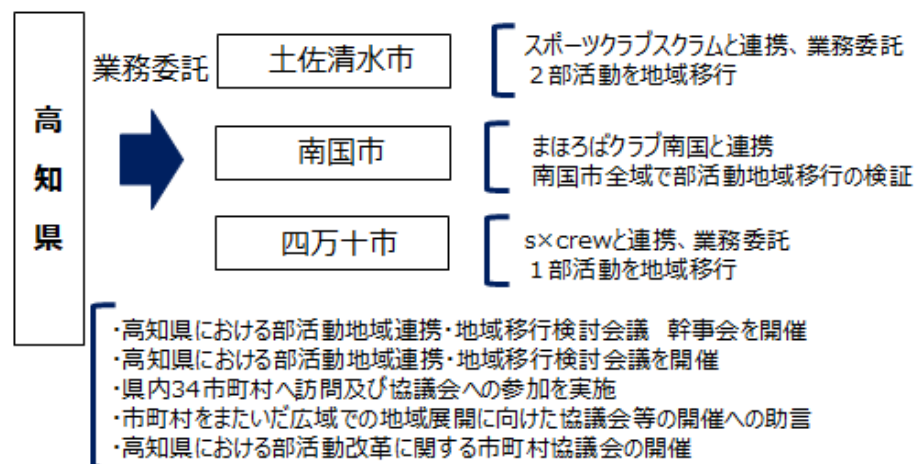
- 高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議 幹事会（3回）
- 高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議（2回）：地域展開に関する課題の洗い出し、部活動ガイドラインの改訂等
- 高知県における部活動地域展開等に関する市町村協議会（令和7年11月11日）：スポーツ庁より「国の動向について」長野県佐久穂町より「自治体が連携して取り組む部活動地域展開について」

今後に向けて

- 高知県の子どもたちが、将来にわたって継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するため、全公立中学校の部活動について地域展開等を加速化する。

運営体制図

●運営体制図



自治体の課題、現状

令和7年度も教育委員会学校教育課（指導係長、指導主事、総括コーディネーター、コーディネーター）が中心となり地域展開に取り組んだ。なかでも情報共有をより活発にするために、学校教育課長を交えて定期的な担当者会を実施した。そのことで、各々の現在地が把握でき、より円滑に取り組が推進できた。また、令和8年度以降の地域展開を見据え、生涯学習課との会合を持ち、地域展開に向けての来年度予算や社会体育施設について協議した。これにより、学校教育課と生涯学習課の協力体制が深まった。さらに、市長部局の理解と協力に向け、副市長を座長とした「ワーキングチーム」を立ち上げた。これらの取組により、南国市の地域展開に向けた体制が整ってきた。一方で、指導者報酬のための財源確保、生徒の移手段の確保、指導者の確保等、課題も残っている。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	908人
域内の部活動数	31部	実施した地域クラブ数	5クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	10人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ (特定非営利活動法人まほろばクラブ南国)		
主な種目	バレーボール		
平均的な活動回数	20回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：4人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	500円/月	主な活動場所	南国市立香南中学校

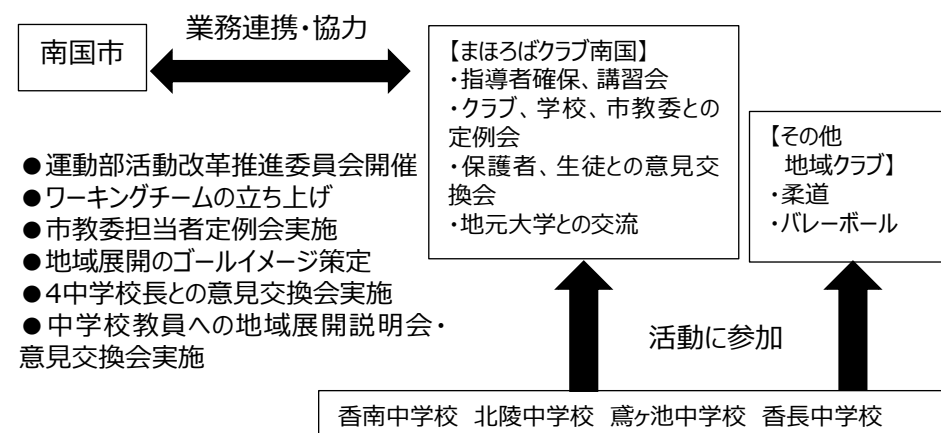
取組の概要や成果

今年度南国市運動部活動改革推進委員会を3回実施し、情報共有や意見交換により地域展開が推進できた。また、市内の中学校教員を対象にしたオンライン意見交換会では活発な質問や意見が寄せられ、地域展開に前向きな動きも見られた。この意見交換会を皮切りに、関係者との具体的な打ち合わせを開催し、令和8年度には市内4中学校のサッカー部を統一チームとすること、香長中学校女子バスケットボール部、柔道部の地域展開を行うことが決まり、市民や教職員への周知を図った。

コーディネーターは実証事業で連携している総合型地域スポーツクラブ（まほろばクラブ南国）に出向し活動を支え、実証事業の現場の様子を鑑みながら、来年度以降の地域展開のゴールイメージの策定へとつなげた。また、8月末には香川県三豊市教育委員会を視察訪問して先進的な取組を学び、運営体制の参考とした。

その他、指導者、保護者等を対象に「ハラスメントやいじめ対応」「救命講習」「子どもの自死予防」「ペットトーク」「求められる指導者像」などの研修・講習会を実施し、地域展開に関わる人材の質の保障に努めた。

運営体制図



自治体の課題、現状

近年の人口減少により、中学校は閉校と合併を繰り返し2013年に、清水中学校の1校のみとなった。生徒数は当初350名であったが、2025年（令和7年度）は179名と12年でほぼ半数になっている。

生徒数の減少に伴って、教員数も減少、部活動では、生徒だけでなく、それを指導する専門的な知識を持った教員も減少している。また、進学の際に部活動等を理由として、本市を離れるなど人口減少化が進んでいる。

地域クラブ活動等の概要

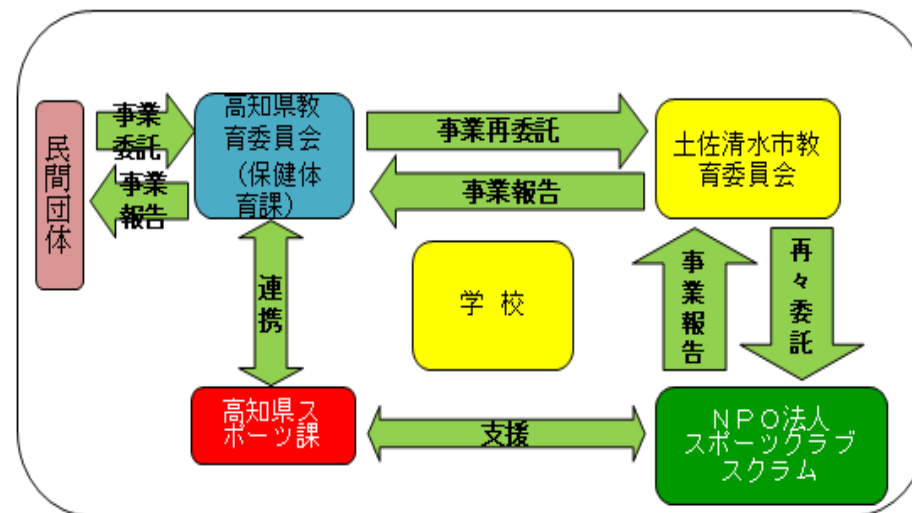
中学校数	1校	全生徒数	179人
域内の部活動数	11部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブスクラム		
主な種目	硬式テニス・バドミントン		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：1人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	●バドミントン 月会費 500円 年会費 6,000円 ●硬式テニス 年会費 10,000円	主な活動場所	市民体育館・総合公園 テニス場他

取組の概要や成果

硬式テニスは、中学校を卒業した地域クラブの生徒を中心に、地元の清水高校で硬式テニス部が発足し、今年度念願であったインターハイ出場を果たした。中学生も高校生と一緒に練習することで、刺激を受け、向上心が高まっている。

バドミントン部は、小学校、中学校と一貫した指導があり、県総体や県学年別大会等ではシングルス・ダブルスで上位の成績を取めている。今後は、全国中学校体育大会出場をめざし取組んでいく。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市は、生徒数、教員数の減少により、専門として指導できる教員がいない、生徒がやりたい部活動が学校に無い、団体競技においては自校単独でチームが組めない等の現状となっている。「地域の子供たちは、学校を含め地域で育てる。」という意識の下、本市の実情に応じ、子供たちが地域でスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、学校の働き方改革を推進し、持続可能で多様なスポーツ・文化環境の一体的な環境整備を図っていく必要がある。

令和5年度から検討委員会を立ち上げ、地域連携や地域移行の進め方等について協議を継続しており、令和7年度は地域クラブ1・地域連携4部活動で取組んでいる。課題は多いが、移行が可能な種目から段階的に進めていきたい。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	821人
域内の 部活動数	32部	実施した 地域クラブ数	1クラブ
全体の 指導者数	4人	全体の 運営スタッフ数	4人
主な 運営団体	民間事業者		
主な種目	ソフトテニス		
平均的な 活動回数	20回/月 平日3回、休日2回	年間平均 参加生徒実数	3年：9人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：11人/クラブ
参加会費	2,000円/月 (うち保護者会費500円)	主な活動場所	安並運動公園 テニスコート

取組の概要や成果

休日に加えて平日の活動も実施する中で、地域クラブで子供達が継続的に活動に親しむ機会が確保されたことは成果である。また、様々な障壁がある中、本市の地域クラブの先駆的なモデルとして、勝利至上主義ではなく初心者から経験者まで受け入れ、スポーツを通した自立心や社会性、人間性の育成を目的に活動している。設立2年目にして全国大会出場を果たし、市内外での認知度も高まってきており、部員も約30人となっている。

しかしながら、地域の方が主体となるが故の負担（特に現役世代）や指導者への謝金の捻出、練習場所や大会参加にかかる移動手段など持続可能な運営に向けての課題は多い。

運営体制図

